



中村俊定文庫
文庫 18
288



徳休

つひさの園

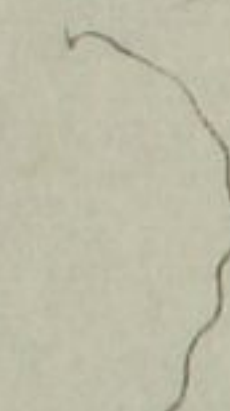
延享四年初冬

百重・深魚編

月次集

俳諧

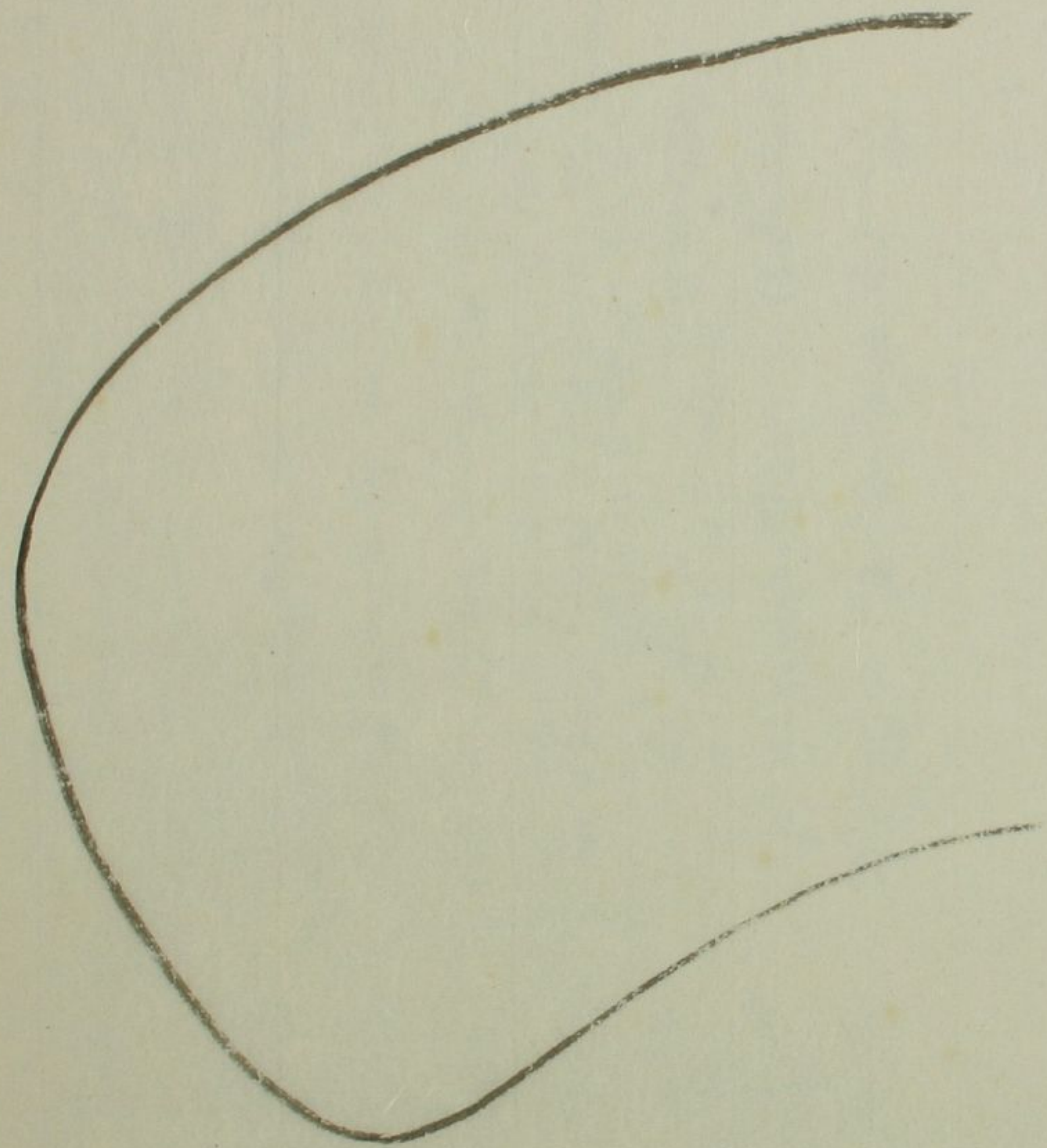
の



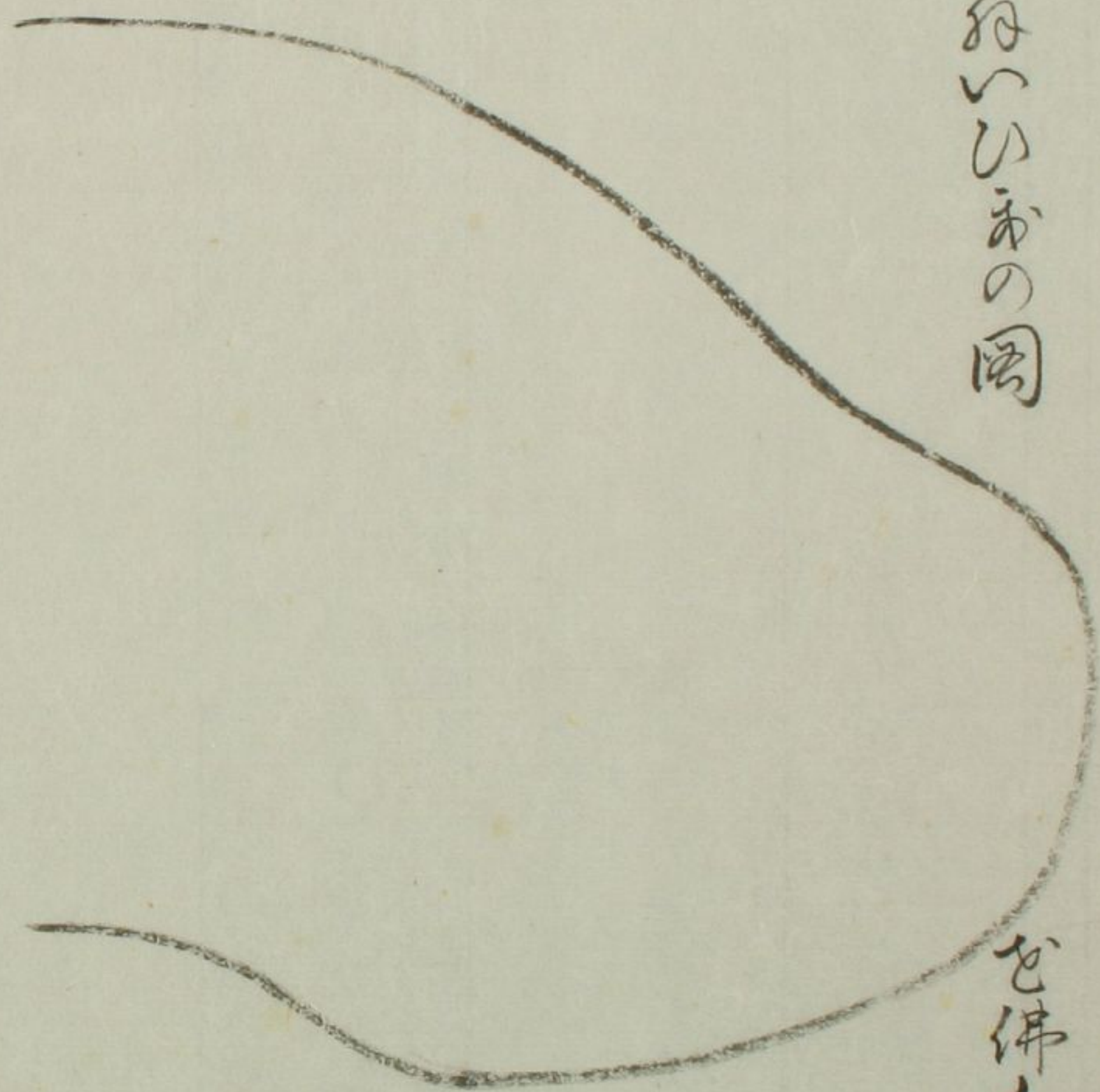
の

図

五



おんいおの図



お佛の図

風字行大津ノ條ニ出テ
懐玉抄ニ出テ

千石の陰をこく
あつさうの雲よりか
鳥碎

湖の目をあめくふは清水外

連珠くらゐる合歌の古岸

袴千尺竿を調布子にばせて
百重

作る大あゝを結行く
不丹

新平よあまの巻もぬあてり
深奥

月も情くもの水は安てふ
花光

街を舟あんとんぬくまぬて来て
方池

競子よえふ橋の鶺鴒
雪點

月次定連 江都

けり神やうきふ草の夢もあし
草生

涼風や柳よりうきとけく忍ぶ
珠来

三日月をたあてよ漕やそよこみ
花溪

名月や智もくふじ木の枝
引雨

大根も引あゝくく不破の里
百重

磯山の映ふま宿とふあつさ
百重

浦原も然然とくく生海氣外
深魚

納豆の苞も一ト枝やまをさる
桐面

七葉を付向てあふや結もく
故弁

傘をさして歩くと
花の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く
山崎の影を引く

孤松
林丘
三枝
東照
空照
碎江
把菊
洞中
梅雲

川原の柳も柳も

曰

相州

昔も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も
花も花も花も

早井

左整
白樵

晚成
芥江

居時

毒行

猶股氏
全目人

白樵
吉沢氏

晚成
全目人

芥江
吉沢氏

居時
水崎氏

擬寶珠とまゝの端をのりて尾をま
 尾の尻の如き房ハ里が凍へるり
 右引や房も毛とり終の言
 思ひ羽とちのうまふ四つ子
 福ふや雀も煙のまうちう
 けりぬの顔つゝふや留子籠
 雀の親や羽片もぬるも七用平
 目を友よ遠く遊ゆや雀の松
 替振と煙もそへ一ハ梅の志
 う節の形もそへその節子一
 孫さの相もさやうそ一葉針

中者
 尾末
 午結 江田氏 片岡人
 古山
 雨鹿
 山芝

早乙女やとまのまうり唄りぬか
 魂柄や先系話の 捲きとま
 あの多い中よ浮名や二ツ星
 ハ朝や袴着てあふ角力取
 海をうまおもあふり古用平
 夕つゆよまゝのく原一 是まうり
 化宗まゝ十招の後や山中
 を海軍の波や細色とらうりけ
 風折のぬまを捕や尾線堂
 時命や借言の貝とんこ香
 朝歌を麻への我理や糸のる香

夜珠 磯部氏 千原人
 聖紅 島村氏 豊田人
 中石
 如堂
 尾岡
 白鳥
 芦新 新
 秋川

此時を姑も笑や木棉より
冢の層底にてもあり一層の聲
踏の尾のそとそとをきくふあり
野立や春をきくぬ 鳴子引

同

上徳州

木の段の枝交見えあふ ありあ
振くまゝの葉よ けきやわとを
さす羽のゆりあせてや 時を
あむり一嘘もあふや 古用子
羽衣の衣もあふり 解の身
あえのまよ 道より 聖も山も

子来

吹雪

鳥語

松牛

東籬

和笑

風流

舟の流のまじりあふもあふ 福庭より

早乙女の中を舞ふやわとまき

卯の葉のころころの雪や 八重葉

船くの池よまゆやうとつと

山さへ海をこるるま 尾葉外

ぬきまをきくきくふや 田村取

新栴の苗よ 美ゆや 唐より

まやあふり 河にも 年月言

来ふ程の雪の相合に 桐の花

を合や 仲人 別々 長き糸

石の合や 骨を仕ぬえ 牛の雪

夜東

観魚

和郷

翠羽

南珠

市栴

越外

大布

布水

秋風 大聖人

白牛 聖人

秋風 大聖人

三日月の燈より下りふや破きを紙
親和の橋。あつちの舟を引
ふ香らうと痛みの里はねとふ
四のそや一筋分ふ川の音
船頭や一と吹く風の實をの
影垣の昔をさるるふ雪分計
福島の引とつとるをの神
引ふよ一筋うけておとさる
芦の穂のやけつとるや浪り舟
たかぬは化家と味つとる雪計
卯の花よねふや蝶の二とら

弄輒 香井氏 鏡子人

管吹 信太氏 日

白字

市道 石井氏 野人

東海

梧仙 廣徳氏 神崎人 高柳氏 押砂人

生所中を花も名所や好の月
卯の花やまふいふ舟を垣敷
舟の舟の舟もさる柳陰
江の舟を葉の舟と蓮の舟葉外
咲くよのさるるね 巻巻る
日 常州

花取 柳屋 押砂人

葉舎 野口氏 香取唐人

糸江 藤枝氏 鹿嶋人

子取 宮崎氏 日

松郷 大星氏 日

空の花よ子をたそそくくふの目
極四こよむし消えあり花柳木
触む糸の綴る地をくく大杉川
舟船の多難やその舟の縁
川をたふしし消えを為る計
舟月の影を奪ふや花柳木
相る存やお寐の窓も花柳木
夕顔の昇くお園や門をく

同 下野州

藤井 下吉田
花真 日
翠堂 日
三山 舟院
府中 花真
イッラ 藤原 日

おや ねんねふ
弱ひあつてく 何あり

海山 一 枝もる空の花の法 西林

上巻
下巻

花の香や花柳木柱も花魚
百明房
楠川 藤大雲 藤原も花とふ花魚

帆柱の次分く〜ようき〜
 苗代ののみ〜の熱花の跡
 其の自を浪や〜
 苗代ののりや神の〜
 海士もろ〜の歯のわらひ
 あのか〜奇の夜も〜
 貧田村 宝持〜
 小金の價や〜
 白飯の〜
 一茶を〜
 袋村千吉亭〜

錦江
 幸全
 魯堂
 一醉
 碧江
 楊水
 和維
 妙石

々も思ふや山路の稚子の一跡
 いさゝかよ矣種始らん
 金谷村 日影〜
 送の峯と〜
 山極山歌〜
 川極杖を〜
 兜殿〜
 左の海風〜
 喜入信〜
 里へ信〜
 り〜

錦江
 千吉
 柯亭
 和名卷
 芝仙
 吉見
 巨山
 紫巾

舟中村ありしをばひ去舟へ抜ひく道の服身

蘇く時の懐も曲家や麻夏 山重

長竹村ありのありしも又家節を連る道中にも終ると

素つこや密て世こ子も乳を懐 山登

安戸宿 吾等の懐もと徳川 探歌の中

あつこくお祓代の言も衆こつ子 家節

しるの佳果もつりや春のぬ 泉海

青柳の葉交せり 石録

寄船宿 山登子に夜まても付ひ来り連中にも終るの

家子 永海老人を信州の風生なり面を交へ

一日物候を蒸ひまもいひしる あまのこ

流りど捨ぬ 老木や庭の花 不明

入念を子 牧西(重)酒を掃引(野)を七歩子 裁あり

野の風も梳せし 遊ぬ柳子 亮雷

牧あふれれが庄の人ま知りけ先を忘りぬとる

こらうう物元のねや蘇の花 露葉

来る人よ花笠借して 友の袖 来玉

行をの跡のふりや 夢を夜 市川

花くの花の眉掃く 的味う子 女

夢山よ 眉いあまこり 友の涙 長車

卯の花子 別逢く久し 背井音 岩龜

鴨橋と 楽先ん なりんこ 香 松島

重り誤り

山登

小川氏

時多并虫の柵のこゝぬり種
 花ぬき又咲くやうり七用干
 夏畑は二葉のありく小巻外
 杉風のあゝる瑞ふ残衣外
 立つきの跡を跡らゝくあう菊
 糸兒は園の風も薫りあうら
 花雪の子小巻の風も新へそ
 糸のまよお宿し〜り露く自
 沖くのあき〜り〜り露は涙
 目影の影〜あうりや居しあ
 山花を里へあう〜り〜り取う菊

有瑞 東山 肥後人
 白塘 同 日
 不離 菅原氏 守人
 民欣 九木氏 守人
 有孤 經平氏 守人
 三洗 教氏 守人
 巨山
 柯亭

作ぬき名あつてる病ふを花外
 糸葉兒の中より虫あり下戸一人
 経丹や索あ〜りわ〜り〜り露の毛
 印のあやねふ花の清もせと
 色糸のまよあ〜り〜りや居のま
 浮葉の花の子ととあ波寄らま
 ほとあすあの子あもほまあ
 あ〜り〜り波の毛とあしあま
 海生もあ〜りあ化あ〜りあ
 花わ〜り〜りあ〜りあ〜りあ
 むつ〜り〜りあ〜りあ〜りあ

芝仙
 糸巻 吉田氏 守人
 市棠
 女市丸
 市川
 文山
 露葉
 露帆
 露帆
 露帆
 露帆
 露帆

ふみそを画のま寫してふの月
昔言とるりやはあふ陸一の柳
葉の露をりうく高しあを在

曰

上野州

、唐治
岩
五溪
秋菰 長谷寺氏
三浦屋人

芝薺の身も覺ありくおの秋
あつあつそらりし思つて清水井
卯の花のふ葉をりうりまの秋
お露甘のふ名を後ふあやあ計
なよらりしん言ふりあの秋
組板の橋も善ぬやくつら
管ゆら新まつりし秋の月

女
一紅

呼雪
古秋
帰来
菴支
門冬

未承風の楫とふ枝の陸より
糸子をも思つて若ふ糸子
色々のまをりうりし蕙の風

曰

信州

古海
仙魚
柳白 白石氏

川解の糸はく顔や蓮の花
芭の葉やあもあもるそ雲降り
明風とあねやあねの雲降り
あね板りくたし解りうり
山あふ歯ハふくと極うま
雲喰の危まあつて牡丹非
ふり難く吹去るく置や寺の門

中藩 十三年
善寺主人
孫佐
亦也
面坂 秋氏
須垣人
紫名 宮寺氏
元宮人
對臨 神清氏
天代人
雲取

比水は波く人見せぬ暑うふ
 児達もろくろ茶一川山さく
 蛸鈴や人よくせく 是の上
 裡紺の簪もあ葉や木下陰
 五月白の梅香とて 菅うま
 空山く工尖のきよはる葉非
 春茶や赤衣の雪の面く月
 張ちか響響のうきや 神妙
 彩色く山も仕止るあ葉非
 飛星く一解信もやわとく
 口の氣と梅もくくやうく

松代 長江
 南菊
 玉竹
 輕舟
 冠菲
 五柳
 昨雪
 看江
 巴仲
 長海
 折豆

紀行

長花房
 長花房

信州美佐人
 武川 徳文巴人カ

去年の倒もくく 空紫の雲を首達に仲夏の日は法所り
 花語(歌)とて 春も花もあふるんは 花語(歌)にけり 春も花もあふるんは
 上は 春も花もあふるんは 花語(歌)にけり 春も花もあふるんは
 上は 春も花もあふるんは 花語(歌)にけり 春も花もあふるんは

鶴子 姨石 小塔心
 春山や春も花もあふるんは
 春山や春も花もあふるんは

留所 園池 明十数田 同いふ川

正甲やく室よ一夜の清水より 夏物房

うゝの相や田あふ河の星の乳 正明房

河あふさいとけりふや首途川 長七房

此を待すくやあふ

河の敷りく籠も乳一 女川より 松代 正井

河もなぬまの乳と結う係 折笠

林ゆゝく病もけなま 藤より 竹也

宿くの風白い扉一 本下宿 藤佐

音信なきふまうゝ屋く 郭公 半藤

運木宿 西尾寺の柏餅と後家春の同書は対語は探歌

卯の花も染ふよ花やハ日乾 布仙

上田宿 馬廻子の風靡と音信く守二季

あけを種のはのつものこり子 五徳

涼しさの蒼とんふや二日月 東洞

逢ふ節引山とんねとまゝに布と引とまゝに

長二十丈廣五丈とらうとまゝはの園の寝まゝのりは

小清城下 五月るもあまそまゝは 探歌ら奥の中

一併 紙くく連す川 清水野 林舎

あけの戸も登りて水鶴より 瑞之

かゝりもまゝも指も出て 藤野 友仲

そまゝの紙もくくも清水野 戸尾

るあ

藤原出く 漸く 是より 長花
尔と 井原 斗休 房の 後を 袂に あり

るあ 斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

斗休 房の 後を 袂に あり

下界 暖屋の風 結之

月の夜もあふ
あつたあつた
あつたあつた

新風まよふは向くや塚の竹
置く高も花雲をりけそ塚のま

名跡

遠く火やふちふちのぬの糸
そ合の契なめしやうおの玉
四と紙を階の音ゆやんち

江都文通

暖音や木の香よ夕日思ふ
み舟や魁も下おの里の夜
柳かゝ柳の形やあやめ暮
体は時神のさらく田植くま
星の海を空よ暮るる鴉子外
庭をよま井の曲や夕涼
魁鏡と世集よ紙くや世の勢
吾もえんふ思得もあうそひ
星のふ人よ物々水々涼外
早乙女や洗灌川を流るる足

壺牛 玉童 花溪 百舟 深泉 志光 孤桐 方化 故舟 鳥種

菊峰 翁所 梅徑

名月や桐花子扇掃く宵の月
 帆柱も襦子なうて生月の月
 帯目の浪もうねる月を宵
 寺々も里へ強やりぬの月
 名月や野も元由家川白
 葉心子一人笠まきやう月の月
 補る余踏とあり月の月
 舟も出く飛ぶやう月の月
 新派名月も昼や月の月
 名月も踏まき扇も流るる月
 名月や各地も舟と月の月

白
 語風
 馬未
 咲雪
 菊亮
 雨深
 瓜步
 共麻
 長花

神の杉木氏ぬえのまの海舟房の田交なれぬぬは是
 ちくちくこもをたきわくなまは徳勝をたきわ

夏舟元河の舟月もたきわくなまは徳勝をたきわ
 舟の心は徳勝の舟の徳勝は二連りくこもをた
 碑ありと流よ

飛んてり五あ字よりて船の音
 一花浦尾ぬま向竹
 ちふ跡も踏もよ扇の向ひ外
 舟も入むハ敷の鞭り萩乃月音
 舟も入むハ敷の鞭り萩乃月音
 舟の例も偃こも字や秋の風
 此をの危いらららー雲の音

音破
 曾良
 如之
 曇昭
 温故
 東里

飴分 あまやう

引とらん 菱のあはれとらんを瓜

ハ菱

加海行旅の通し書也

小雲あ

屋を記し 飯やりの中より白紙外

夏浪

内外新紙

寛延三年遷宮

あつとをきつて遷宮の書道見立
手紙のつくし木の石より
まゆまといとそくおろや

まろりーの本家と来りて 杉山

正明房

かーとま子日新福とて 夏柳

夏福房

弊の照あ〜さより 花原

長宗房

一葉菴に時足倉原の白あし 滝もとるの
るや 地人 尾角の 藤白の 藤ふ 阿波の 都人とす

祖座 三波三川徳肆

此種もろろぬ友の松板と松をらまわ
松はとしをいぬは 丁もあま 永信を
何れあま〜と松の松をわたり
子松〜

く〜月〜

あ〜と〜

歳の名

長花
考
初

三法師一巻う〜〜原のゐるを
御のう、其修の五七くを歌と
し〜との〜

そと白中よ置て

龍あり

性と証ふ

山形も

引のぬなの

松坂子

此終と菊又女をやちうり弁
義と終やういぬ女の 後口歌
松坂よ玄井いふ〜三のふ岬

魯費

蘇石

語風

松とらとわく

おひせ

藍の海

えんほ〜や松をわきて飛たり
そ子の花よをう〜〜遊ひ過
ふ赤系中とんせ〜こり海り空

魚吹

映燈

鳥来

層の来〜

永海とあふ

海〜

層の来〜是〜〜〜〜〜
ふき酒の永夜と何ふ 鶴う子
聲く〜島七月の名海〜

浣石

買山

海白

桐の初を

引きり

引統しそ

あしきま枝の節我系柳

維石

引きりそのま際や暁あふ

雨作

引きりあふ統しそ白も終

菊老

引きり

引てまへ

歳の色

こまひく鐘聲をこ風のまひり

瓜歩

引きりあふはへ一あまの居

金鼓

引きりあふを休て歳の色

呉扇

丁卯終

月次定連

勢州一葉菴連中

福書や別添の心も踏進し

魯貫

能くはにそ性もまはれ秋の色

魚吹

名の色もそり佛く花聖子

浣石

朝空や月も系乳の仲の色

舞石

実守の戸も青あふ秋分多

雪輝

風のまのまを既定めをせは春

買山

うゝ枯やこほまふ年の早合点

堆石

綿書や秋分巻を清しそ虫ふ

浴白

いよつまやそりくくえを秋分の人

浴風

茸指や聖書の道も佛しそり

浴風

川傳の兒まゝに浪やおふ神
其の中は松を借り長や尊に紫
神似や出崎くくも 浮海を
月もも戸を偏安しきくす
海も来ふ方よりくくや月の舟
舟拂ふ神もまろくく本海取

日

京都

すまひま字作いし神香や雲揚唄
葉の花やゆきくくまも之舟の種

連外文通

東よ多麻八させん ぶふ木の系

鳥来 兜摩 瓜お 兵扇 西津 龜老 玉象 仙行

奥列

半梅 山田氏 仙臺人

光達の神成風や昔の花
向ふく浮草来りく 夕涼
渺くく月を橋りけを田植着

七夕飾あそび

星も多葉あそび人のあきけ
舟干や八重垣他果長局
万燈ハ燈子見やく 瓜 瓜
轉くぬきも遊ふや 踊りや
植也 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜
名月 やつと燈りく走る瓜
著を飾り人も白くを瓜白瓜

扇之 西川氏
沙明 高合氏 影森人
半粒

丹波 瓜道
播磨 松架
常陸 其陰 野田氏 鹿島人
甲斐 桑坡
駿州 夏推
駿州 市船
魚山

通てを思ひやうとや
風の枝見えやうとや
木々々の姿日ゆく
廻代杭
至芳

豊前
江都
蓮朝

初冬竹

玉眼の連唐志きー松の風
山麓ををさつけく
大海をえとりあうく
さき跡ありく
柳居
秋瓜
門悪
智碎

丁卯冬日

